

月刊

リサイクルデザイン

地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい

リサイクルデザインは、横浜市
内の資源回収業者の組合(135
業者が加盟)による、市民と組合
員にリサイクルの情報・回収の
実情を伝えるための情報誌です



古紙の集団回収を考える ②

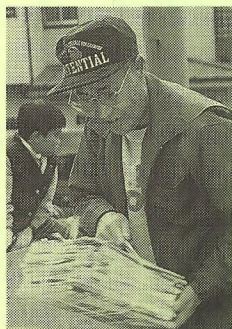
古紙集団回収の 現場から

今回は集団回収の現場の声や問
屋の現状を踏まえ、前回に引き続
き古紙回収について考えていきた
いと思います。リサイクルデザイ
ン43号を合わせてお読みください。

集団回収を どうしたらいいの？

集団回収にかかわる方たちの声
を直接うかがいたいと思い、三浦
商店の三浦喜夫さんの回収作業に
同行させていただきました。

三浦さんは昨年六月、雑誌が逆
有償になった時点で、雑誌の回収
をやめることにしました。

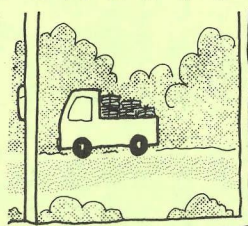


三浦商店 三浦喜夫さん

「今のところ横浜市か
ら奨励金が出ているか
ら、雑誌の回収をすれば
子ども会や町内会にと
ってはわずかでも収入
にはなる。でも自分と
しては逆有償というこ
とに抵抗があって…」

この日の回収場所は、西区の境
の谷西部子ども会。回収区域に入
ると、町の各所に新聞の束が積ん
であるのが目に入り、集団回収が
定着していることがよくわかりま
す。時間になると子ども会役員の
方たちが現れ、子どもを交えなが
ら積み込みを手伝う姿が見受けら
れました。

一通り回収したところで、役員
の方にお話をうかがいました。
「子ども会を運営するための回収
だから、逆有償の額が増えてメリ
ットがなくなったら、このまま集



団回収を続けるかどうか考えてし
まう、というのが本音」

「月一回だから、家にとっておく
のも大変だし」

この日の回収量は、二トントラ
ック二台に新聞三・二トン。三浦
さんと奥さん、それに息子さんの
三人がかりで、回収して問屋に持
ち込むまで三時間かかり、売り上
げは九六〇〇円でした。これを前
号で算出したコストを元に検証し
てみると、コストは(三五〇〇円
×三時間)×二台＝二万一〇〇〇
円。コストから売り上げの九六〇
〇円と市からの奨励金三・二トン

第4回 リサイクルデザインフォーラム 5/31(日)に開催！ 「どうする？どうなる？古紙のリサイクル」— 集団回収を続けるために

×キロ当たり二円〇六四〇〇円を差し引くと、五〇〇〇円の赤字、という結果になってしまいました。

続けようか？ やめようか？

横浜市内で町内会や子ども会の集団回収に関わっている方たちは、こうした集団回収の現状をどうとらえているのでしょうか。

「個人的には逆有償でもかまわないとは思っています。もう十年くらい続けていて、町内では回収の日には出す習慣が出来ていますから、いきなりやめるわけにはいきません。市の奨励金を増やしてもらって、このまま続けたいですね」
(横浜市中区 花咲町二丁目町内会長 長 斉藤幸寿さん)

「今は奨励金があって、逆有償でも子ども会の負担なしに続けられるのでやっていますが、これがマイナスになってしまったら回収をやめるかもしれませんね。なぜかというと、町内には回収に出している人と出さない人がいるのに、町内会や子ども会でマイナス分を負担すると不公平になってしまいますから」
(横浜市保土ケ谷区 コープ保土ケ谷子ども会前会長 蘭 透美さん)

「九七年度は回収して出た収益の一部が、雑誌の逆有償で差し引かれてしまった。若いお母さんたちに大変な思いをさせて集団回収を続けているのが気にかかるので、九八年度は雑誌の回収を見合わせることにしました。」

売れ残って返品する雑誌や新聞が、駅に積んであるのを見ると、こんなにゴミを作ってしまうんだろうと言いたくなる。そのところを考えて作って欲しい。資源のない国なんだから、あるものでやるってことが一番大切なことだよ」
(横浜西区 東久保町東睦会長 斉藤重作さん)

みなさんのお話をうかがうなかで、「市の人に、雑誌は古紙としては人気がないし、燃やして作った電力を電力会社に売っているから、雑誌をゴミとして出すのはいいことだと言われたけれど」という疑問が投げかけられました。雑誌をゴミとして出した場合、市では生ゴミなどと一緒に燃やして処理しています。その時に出る熱でタービンを回して電気を作るわけですが、燃やせば二酸化炭素が発生し、必ず残灰も出ます。残灰は重量にして元の量の四分の一、体積では十五分の一になりますが、埋め立

てて処分するしか方法がありません。

こうしたことを考え合わせると、燃やして処理するというのは、いい方法とは言い難いでしょう。

問屋の在庫はどうしているの？

回収業者は、集めた古紙を古紙問屋に持ち込みます。問屋はこれを買って選別した後、製紙会社へ売却しています。

問屋は製紙会社からの発注にいつでも対応できるように、常に在庫を持っています。適正な在庫量は、製紙会社への総出荷量の一五パーセント、在庫限度は三〇パーセントとされていますが、昨年三月末には、関東地区の主要三十三社の新聞・雑誌・段ボール合計在庫量が五二パーセントに及んだため、置き場がなくなつて貸倉庫を借りて在庫を保管する事態となりました。経費をかけても在庫し続けたのは、回収業者とのパイプをつないでおかないと、その後の仕入れができなくなってしまう可能性があるためです。

古紙は四角いブロック状に圧縮して保管します。圧縮したブロック一つの重さは一トン、底面の大

きさは二メートル×一メートル。五〜六段重ねて保管するので、二平方メートル当たり五〜六トン在庫することが出来ます。ただし、このブロックはフォークリフトで持ち上げて移動するので、通路として全体の面積の三〇パーセントを確保する必要があります。

関東周辺で倉庫を借りる場合、標準的な広さは三〇〇坪（九九〇平方メートル）程度で、倉庫料は一か月七五万円余りになります。広さの三割を通路として確保すると、保管できる古紙の量は約一五〇〇トン。そこから試算すると、一五〇〇トン保管するのに一か月一キロ当たり〇・五円かかることになり、半年在庫すると、一キロあたり三円の余分なコストがかかってくるという計算になります。

在庫量に関しては九八年二月末現在、関東地区主要三十三社の新聞・雑誌・段ボール合計在庫量は三六パーセントと、一時期に比べ減りました。メーカーの使用量は昨年三月以来ほぼ同じという条件下で、問屋はどのようにして在庫を減らしたのでしょうか。

在庫を減らしたの？ どうやって

過剰在庫に対して、問屋のとおた対策とは輸出でした。在庫が増え始めた当初にも輸出を検討したものの、試算では赤字になったため、ほとんど行われていませんでした。しかし、回収した古紙を長く在庫しているうちに傷んできたため、せめて集めたものを無駄にしないようにと、輸出を開始したのです。

古紙輸出は板紙の原料になる段ボール・新聞が中心です。九六年には二万一〇〇〇トンでしたが、九七年には一四・八倍の三万トンになりました。九七年五月に緊急避難として始めたものが継続しているわけですが、問屋にとってはおとりあえず在庫を減らす効果をあげているものの、このままではメーカーの首を締める結果を招くのではないかと懸念されています。

というのは、日本から採算を度外視して安く古紙を輸出すると、輸出先では低価格の原料で低価格の紙を作ることができるようになり、それが日本に逆流して入ってくる可能性があるからです。対抗策として日本のメーカーが海外に工場を構えて低価格の製品を作るといった例も現れ、古紙の流通は次第に複雑化しています。

輸出した古紙の価格はどれくらい？

現在、問屋の仕入れ価格は段ボール二円・新聞三円となっています。どちらともメーカーまでの運賃を除いても問屋での経費（人件費・機械設備費など）が五〜六円かかります。問屋が国内メーカーに販売する時の定価は、現在のところ段ボール七〜八円、新聞八〜九円となっていますが、実際に国内メーカーが定価で買い上げる割合は、現状では五割以下となっています。中でも段ボールについては、メーカー側の「輸出用に安い製品を作るため」という説明を受けて、三〜五円という低い価格が適用されることが多く、コスト割れの状態です。

これに対して輸出価格はどうなっているのでしょうか。今年三月、問屋の海外メーカーへの売値は、輸出用コンテナを使い問屋から直接引き取った場合で、段ボール三円、新聞二円と、こちらも赤字になっています。

このように、国内メーカーへの販売価格及び輸出価格は、いずれもコスト分さえなかなかに回収しきれないほど、厳しい状況にあります。

いま私たちにできることは何？

古紙の過剰在庫を前にして、私たちに何ができるのでしょうか。大前提になるのは、日常的に再生紙の製品を使うということです。その次に取られることは、古紙にかかるコストを削減するために、選別を徹底して回収に出すことでしょう。

問屋では製紙会社に売る前に古紙を選別していますが、紙はどうしても人間の手で選別しなくてはならないため、他の回収品目と比べ、経費がかかってきます。ペルトコンベアに流しながら種類別に分け、ファックスやパソコンに使

う感熱紙・ダイレクトメールのセロファン・ティッシュの箱の口についているビニールなどを、手選別で取り除いていきます。選別にかかる標準的な経費は、キロ当たり二〜三円程度。これを多少でも軽減することができれば、コストを下げる可能性があります。

集団回収は日本独自に発達した民間古紙循環システムです。そしてこれまでは、回収団体に収益をもたらすことで継続してきました。

いま目の前の収益が減ったという理由で、回収団体が集団回収をやめてしまえば、これまでに出来上がっていた回収システムは立ち消えてしまいます。仕事がなくなってしまうえば、集団回収を支えている業者も廃業せざるを得ません。

しかし大都市の自治体では、今後一般ゴミを有料化していく傾向にあります。有料化された後に、回収に出す側にとって最もコストのかからない集団回収を再開しようとしても、一度断ち切った回収システムを立ち上げ、やめてしまった回収業者を呼び戻すのは、かなり困難な作業になることは明らかです。

（よしのたかこ）

*1 関東製紙原料直納商工組合に加盟している主要な古紙問屋

*2 主な輸出先は、韓国・台湾・中国

*3 関東製紙原料直納商工組合・横浜市資源リサイクル事業協同組合の概算による

教育現場に 市民の力を

— 横浜市教職員組合教育研究大会 —

2月27日、横浜市立工業高校において、横浜市教職員組合による教育研究大会が開催された。社会科、理科、国語など24の分科会の中に、環境教育、人権教育、男女共生などの分科会もあり、小中養護学校の教職員によって研究発表と議論が行われる。筆者は昨年に引き続き今年も環境教育の分科会に参加する機会を得たので、今回はそのご報告をしよう。

発表した学校数は約40校、環境マップづくりや空き缶回収、堆肥づくりなど、取り組みはさまざまだが、教科の中で環境の視点を取り上げる学校や、給食の食べ残しを本格的に堆肥化する学校などが見られ、昨年に比べると環境教育への関心も高まっており、内容も充実してきているように思えた。

●市民が参加する研究大会

さて、筆者は共同研究者という名目で分科会に参加したのだが、共同研究者とは要するに各学校の発表を聞いて感想や意見を述べるコメンテーターのこと。通常、この共同研究者には学校の先生がなるが、昨年からは横浜・ゴミ

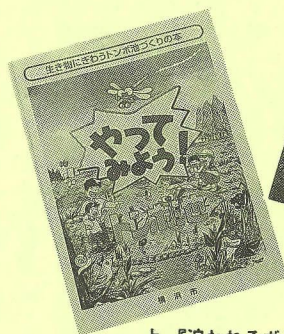
を考える連絡会として、筆者がお招きに預かっている。今年は筆者の他にMOK森を考える神奈川の会の代表の工藤直子さんと横浜市環境科学研究所の森清和さんも名を連ね、年々開かれた会になっている。

MOK森を考える神奈川の会の工藤さんは、参加者全員にサラワクキャンペーン委員会の作成した『熱帯林に生きる』— 追われるボルネオの先住民』という写真集を無料で配布し、会の活動を紹介した。工藤さんは、日本に輸入されている熱帯木材のほとんどは合板かコンクリートの型枠に使われていること、安い値段で使い捨てられていること、その熱帯木材が採れる熱帯林には私たちと同じ人間が生活していて、森を伐採することですその人たちの生活の場がどんどんなくなっていることを訴えた。そして、MOKのような市民団体を授業に呼んでもらえば、熱帯林や国内の林業に関するさまざまな話をすることができると話した。

横浜市環境科学研究所の森さんは、横浜市環境保全局と市民が作成した『やってみよう！ トンボ池』というトンボ池づくりの冊子を配布した。同冊子は、本格的なトンボ池づくりのマニュアルで、工事から手入れまで丁寧に解説している。トンボは移動距離が約1キロメートルなので、その間隔でトンボ池ができれば、横浜中にトンボが飛び交うようになるということだ。



上『追われるボルネオの先住民』
下『やってみよう！ トンボ池』



●市民をもっと活用して下さい！

文部省は、「環境教育もやりなさい」と最近ようやく言い始めているが、ノウハウまでは示してくれないし、特に環境を勉強する教科もない。しかし現行のカリキュラムでも環境の視点を取り入れることが可能なことは以前もご紹介したし、教育研究大会でも何校かが実践例を報告していた。いじめだナイフ所持だど先生は忙しくて、とても環境にまで手が回らないのが実状だろう。だからこそ、横浜市に沢山ある環境保護団体を授業でどんどん活用してほしい。既に述べたように、研究報告を伺っていて、先生たちの関心は年々増しているという印象を持った。あとは学校と市民がどう連携していくかだけだ。環境教育の鍵は市民との連携。市民をもっともっと活用して下さい！！

たかはし・ゆき
横浜・ゴミを考える連絡会事務局長

●コピー用紙 (新聞古紙100%の再生紙)

平成10年3月現在

サイズ	入数	規格	1・2ケース	3・4ケース	5~9ケース
A4	2500枚	白 (白色度70%)	2,080円	1,980円	1,910円
		ピンク・イエロー・グリーン	3,660円	3,480円	3,120円
B4	2500枚	白 (白色度70%)	3,180円	3,160円	2,780円
		ピンク・イエロー・グリーン サーモン・パープル・ブルー	5,000円	4,800円	4,680円
B5	5000枚	白 (白色度70%)	3,180円	3,140円	2,760円
A3	1500枚	白 (白色度70%)	2,570円	2,540円	2,230円

●コンピュータ用紙

入数	規格	5~9ケース
2000枚	白 (白色度60%)	2,900円

ご注文は

横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL 045-316-4050 FAX 045-316-6050

*この他の再生紙については、右記までお問い合わせください。

①市民便利帳や郵便番号簿など
イ パンチで穴あけし、不用電気コードなどで吊して、台所の油落としに。(イラスト1参照)
ロ 同様に洗面所に吊して、洗面台に落ちた髪の毛拾いに。
②普通の雑誌類
イ きれいな絵や写真は、切り抜いて封筒のラベル

③包装紙
イ きれいなものは「包む封筒」に。
ロ 靴箱の下敷きに。

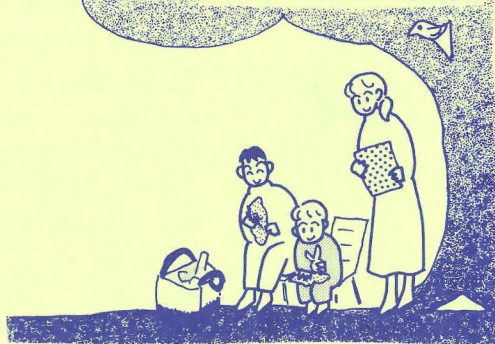
使う(使い終わったページは糊でくっつくので新聞紙より使いやすい)。
ニ 間に花をはさんで、押し花作りに。

最近の古紙相場暴落は、結局のところ日本人全体が、リサイクル(資源を回収し、再生品化したものを再び購入する)ということに未だに未熟だったことにも一因があるのではないのでしょうか。
ところで使ったものをもう一回生かして使う再利用(リユース)は、再生して再生産すること(リサイクル)に勝りますが、リユースするにも優先順序を考えましょう。例えば雑誌。雑誌類は新聞紙ほどリサイクル上の価値はないのです。ですから、雑誌類はできるだけリユースで使いこなし、新聞紙はリサイクルに効率よく出す、という習慣を身につけたいと思います。

地球をまもる家事と工作

第25回 紙製品の活かし方① 再利用の優先順位

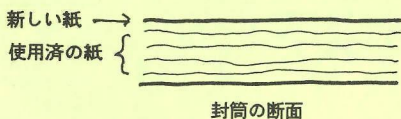
島 秀子
エコサイクル家事研究家



ロ No.42で紹介した省エネ保温調理箱を二重にして、二つの箱の間(壁面)に雑誌ごと詰めれば保温力がアップ。(イラスト2参照)。
ハ 机の隅に置いておき、糊付けの際に1ページずつ

ハ 泥つき野菜の保存に。泥つきの野菜は炭の上に置くと保存性が高まるが、野菜が炭で汚れないよう、野菜と炭の間に敷く。
④ワーパー・ファックス用紙など
イ 裏側をもう一回使う。

- 参照
*1 「地球にやさしい家事のコツ」 大和書房 P138
*2 リサイクルデザイン No.42
*3 「地球にやさしい家事のコツ」 大和書房 P188-193
*4 「地球にやさしい家事のコツ」 大和書房 P58



封筒の断面

イラスト3

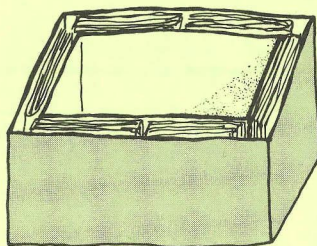


イラスト2

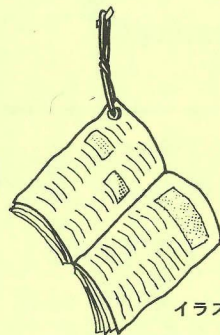


イラスト1

再生紙を使ってみませんか!

私たちの資源回収で生まれた〈新聞古紙・上質古紙〉を含んだ再生紙です

地球環境を保護することにこだわり、環境汚染をなくすよう配慮して作りました。再生紙を使うメリットは、省エネルギー・ゴミ減量・森林保護に役立ち、しかも経済的なこと。私たちの願いは、地球の未来のために住みやすい環境を作ることです。

●リサイクルボーイ トイレットペーパー (上質古紙100%の再生紙) さわったお尻は忘れない

サイズ	1ケースの入数	規格	10ケース以下	11ケース以上
シングル(芯なし)	(1ケース8パック/1パック6ロール) 48個	130m	1ケース3,360円	1ケース3,000円

*上記価格は、1回のご注文につき1ケースあたり(各種・各サイズ込み)の価格です。消費税が別途かかります。

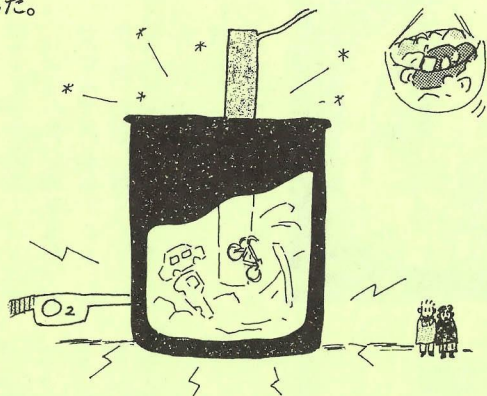
*配送は、受注後2~3日以内(土・日は除く)。送料は無料です。10ケース以上のご注文については、別途ご相談ください。



鉄スクラップも厳しい状況に！

ここ数か月来の東南アジアの通貨危機を、日常生活の中で直接感じることはまだ少ないかもしれませんが。でもリサイクルの業界では、かなり影響が出ているのです。なかでも鉄スクラップ（スチール缶・自動車スクラップ）の価格は、大きな影響を受けています。

鉄スクラップは、スチール缶や自動車のスクラップなどの原料を、電炉メーカーに持ち込んで電気の熱で溶かし、主としてビル建設に使う鉄筋の棒（丸棒）を作ってリサイクルしています。バブル経済崩壊以降、丸棒の国内での需要は減り、そのほとんどが東南アジアへ輸出されるようになっていました。ところが東南アジアで通貨危機が起きて以来、輸出が大幅に減ってしまったのです。ことに韓国への輸出は激減しました。



関東地方で鉄スクラップを電炉メーカーに持ち込む時の価格は、今年1月には1トン当たり15,000円でした。それが3月末の段階で10,000円/トンにまで落ち込みました。この価格から鉄スクラップ業者と電炉メーカーを中継している商社へ支払うマージン500円/トンを差し引くと、実際は1トン9,500円になってしまいます。

この価格は回収業者にとって非常に厳しい価格ですが、これだけ下がっても今の電炉業者は採算がとれない状況にあります。そして買い取り価格はまだ下げ止まっていないことも、大きな不安材料です。この状態が続けば、処理費用の一部を負担しないとリサイクルできなくなってしまう可能性もあります。

現状でできる対策は、鉄スクラップを回収に出す時、まず選別をしっかりといただくことくらいしかありません。選別にかかる手間を省けば、多少のコストダウンをはかることができます。

また再資源化できないものと混ざって回収に出した場合、再資源化できるものも合わせて廃棄物として処理しなくてはならない事態が起きることもあります。そうなると資源として利用できるはずのままで、無駄になってしまいます。リサイクルのために回収するものは、しっかり選別を！

この数字
なあんた？

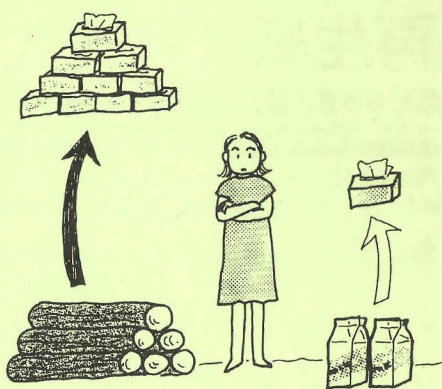
1%以下

リサイクルとは、一度使ったものを回収に出して再生したら、そこで完結するわけではありません。再生したものを、また使って回収・再生するという循環を、リサイクルと言うのです。

最近の古紙相場暴落の要因となっているのが、古紙の回収量が増えているのに再生紙の利用が進まないこと。つまり循環する構造ができていないのです。それでもトレットペーパーの65%は再生紙が使われていますが、ティッシュペーパーは再生紙利用率がとりわけ低くなっています。統計をとっていないため正確な数字はわからないのですが、組合やメーカーによる

と、1%に満たないことは確かです。「口や肌」に直接ふれるため、消費者側に再生紙を使うことに抵抗がある」というのがメーカーの言い分ですが、それでも使い捨てで循環されることのない紙の99%にバリンパルプを使っているという事実は、すんなり納得できるものではありません。

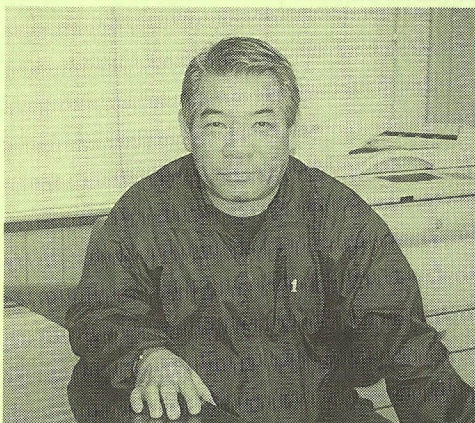
余談ですが、最近ティッシュの箱が薄くなったことにお気づきですか？ 紙の量や重さは変わっていませんが、箱の厚さを測ってみたら、以前の約76%の薄さになっています。これは紙の表面に作るしわ（クレープ）を、これまでより細かくしてむだな空気層を省いた効果なのだそうです。



リサイクルデザインは次の所にも置いてあります

マルエツ井土ヶ谷店／イトーヨーカドー上永谷店／相鉄ローゼン大口店／神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店

組合員紹介 NO.17



株式会社 富士繁 金子 信夫さん

横浜市金沢区福浦2-8-3

〒236-0004 ☎045・783・5665

■取扱品目:鉄・非鉄金属

九三年、綾瀬工場開設。「綾瀬工場は手作りなんだ」と金子

「当時は金がないので、ダンプカーも廃車寸前のおんぼろしか買えなかった。冬はヒーターが効かないので、スクラップから出た石油ストーブをわきに置いて暖を取り、夏はクーラーの代わりに運転席と助手席のドアを外して走っていた。運転手が落ちるといけないから、鎖を一本横に張って。そのころ『神奈川で一番トラックが汚いのは富士繁だ』なんてよく言われていたよ」と笑っていました。

「量は力!」スクラップとともに、走り続ける男

ずんぐりとした体から出るでかい声と圧倒的なパワー。金子さんは、

金子さんは中学校を出ると間もなく、父親がやっていたスクラップの仲買業、富士繁鋼材を引き継ぎました。仲買とは建場(回収人にリヤカーなどを貸し、集めた鉄くず類を買い上げている業者)からスクラップを買って、鉄くず問屋に売る仕事です。

手の問屋が横浜に進出して来て、建場がスクラップを直接問屋に持ち込み始めました。このままでは自分たちの仕事が無くなってしまおうと思った金子さんは、七六年に戸塚区で問屋業を始めました。当時三十一歳。問屋といっても、金も設備も余りなく、トラックスケール(計量機)と荷役用のマグネット、それにダンブカー四台、事務所もコンテナを置いただけでした。

「当時は金がないので、ダンプカーも廃車寸前のおんぼろしか買えなかった。冬はヒーターが効かないので、スクラップから出た石油ストーブをわきに置いて暖を取り、夏はクーラーの代わりに運転席と助手席のドアを外して走っていた。運転手が落ちるといけないから、鎖を一本横に張って。そのころ『神奈川で一番トラックが汚いのは富士繁だ』なんてよく言われていたよ」と笑っていました。

九七年には上矢部工場開設。現在四つの工場を集められるスクラップは、月間二万トンに及んでいます。

「量は力。スクラップをもっともって集めるぞ」と金子社長は意欲満々です。

最後に鉄屋から見た今の古紙業界はどうですか?

「そうだなあ。古紙がこんなに暴落して回収業者も問屋も大変だが、こんな時は問屋が多少奉仕の精神を持って回収業者を支えないと。回収業者がいなくなると問屋も困るから。『お互いに、苦しい時は頑張り通す』。最終的に残ったものが勝つんだから、多少先のことを読んで、仕事をやっていってほしい」と語ってくれました。

「量は力!」スクラップとともに、走り続ける男

「当時は金がないので、ダンプカーも廃車寸前のおんぼろしか買えなかった。冬はヒーターが効かないので、スクラップから出た石油ストーブをわきに置いて暖を取り、夏はクーラーの代わりに運転席と助手席のドアを外して走っていた。運転手が落ちるといけないから、鎖を一本横に張って。そのころ『神奈川で一番トラックが汚いのは富士繁だ』なんてよく言われていたよ」と笑っていました。

「リサイクルの日」シンポジウムとことん討論会が開催されます

今回8回目を迎えるこのシンポジウムは、循環型社会をめざす各地のネットワークの、定期的・全国的な情報交換・議論集約の場です。今年のテーマは「循環経済システムのルール作りをめざして」。

●日時:4月21日(火)・22日(水)

●場所:日本青年館3階国際ホール

●参加費(資料代含む):3000円

詳しくは、日本リサイクルネットワーク会議

TEL03・3580・8284 FAX03・3580・8265

●リサイクルの本当の意味を知っている人が少ないですね。牛乳パックなんて町で集めているところもあるけれど、それを使った商品は売ってない。トイレレットペーパーなんて安売りの目玉だし、私の入っている生協の再生紙トイレペーパーは、ほんとと売れないの。牛乳パックを回収に出すだけで、「リサイクル」とか、「私って環境にやさしい生活してるの」って思ってる人、多いんだよね。

福岡県/わたなべりえさん

おたより

リサイクル 標準価格表

平成 10 年 3 月現在

品 名	買入価格*	業者の売値 3/26 日経新聞より
新 聞	1kg - 1~0 円 **	1kg 2~3 円
雑 誌	1kg - 5~-2 円 **	1kg 0~-5 円
段ボール	1kg - 3 円 **	1kg 3 円
衣類くず	1kg - 1~0 円 **	1kg 4~5 円
アルミ缶	1kg 10~20 円 ***	

*集団回収には「買入価格」が適用されます

**有償となります

***スチール缶などと選別してある場合の価格です

★この価格は 500kg 以上集団回収する団体のみに適用されます
また取引条件により、多少の変化があります★事業所から発生したものは、集団回収の対象になりません
事業所ごとに、業者と直接ご相談ください★集団回収以外の段ボールの回収には、1 回 3,000 円以上の
手数料がかかります

★段ボールは必ず束ねて出してください

オフィス古紙
共同回収

'98.2

参加企業 11 社

10,450kg

回収地域は横浜駅西口・
新横浜の 2 か所アルミ缶
店頭回収

'98.2

市内スーパー等
102 店舗31,570kg
(2,003,000 缶)横浜橋通商店街
ダンボール回収

'98.2

10,700kg

編集後記

♥ここ 1 か月ばかり、毎日時間が経つのを早く感じて、朝仕事をはじめて気がつくとな夜になったりして。でも一番時間が経つのを早く感じるのは寝てる時。さっき寝たばかりで、気がつくともう朝。仕事中の 6 時間と、睡眠中の 6 時間って、どうしてこんなに違うのでしょうか？ 今日も眠いです。(Donald)



バックナンバー差しあげます。
送料のみご負担ください。
お申し込みはお電話で。
☎045・316・5122 担当 竹澤

ゴミとして出されたものは最終的にはどう処理されるのでしょうか。現状では、粗大ゴミも家庭から出た可燃ゴミも、最終的には埋め立てています。埋め立て処分場は様々な問題を抱えていますが、今のところどうしても必要な施設でもあるのです。横浜市の場合は、神明台と本牧の 2 か所に埋め立て処分場があります。

処分場に埋めて処理するものには、家庭から出る燃えないゴミや、可燃ゴミを燃やした後に残る残灰、事業所から出る事業系一般廃棄物・産業廃棄物などがあります。こうしたものを運びこんでそのまま埋め立てていたのでは、かさばってすぐに処分場がいっぱいになってしまいます。不足している埋め立て処分場を少しでも長く使えるように、体積を減らす作業が行われています。

その作業とは、細かく砕くこと。これで体積をかなり減らすことができます。さらに砕いたものの中から、鉄やアルミを選別して、再資源化します。また、重さの割りにかさのあるプラスチックを、ふるいや風で選別して溶かし、粒状に固めます。この作業をすると、プラスチックは元の体積の 30 分の 1 まで減らすことができるそうです。

ゴミを減らそうという呼びかけはさかんに行われていますが、そう簡単には減りません。とりわけ事業所から出るゴミは、年々増え続けています。せめて回収する段階の分別が徹底すれば、埋め立てて処分するものが多少は減らせるはずなのですが…。

リサイクル
コンポイント講座“リサイクルデザイン Club”
会員募集

月刊リサイクルデザインは、市内の一部の区役所・地区センターで無料配布していますが、会員として定期購読して支えてくださる方も募集しています。ご希望の方は、1 年分 1,000 円(郵送料相当)を郵便局の振替用紙を使ってお振込みください。

口座番号 00210-3-64725

加入者 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お届けは毎月 20~23 日。特にご指定がなければ、最新号からお送りします。

また、イベントなどについての情報を、別途お知らせします。

月刊 リサイクルデザイン
No.43 (Vol.5)

発行日 1998 年 4 月 15 日

発行人 中野聡恭

編集人 宗村隆寛

発行所

横浜市資源リサイクル事業協同組合
〒220-0023横浜市西区平沼 1 丁目 33 番 1 号
東洋建物横浜ビル 5 階

TEL & FAX 045・316・5122

スタッフ

山岡秀明・武松昭男

杉山宜利・竹澤留美

ライター

島秀子・高橋由紀

イラスト いとうみき

編集・制作 よしのたかこ

印刷 オリジナルプランニング